

教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京科学大学拠点連携校共通						
教育プログラム・コース名	連携7校共通：がん予防を推進する遺伝医療職育成コース(インテンシブコース)						
対象職種・分野	医師(臨床遺伝専門医), 看護師(遺伝看護専門看護師), 認定遺伝カウンセラー, の有資格者および当該養成課程の大学院生						
修業年限(期間)	1年						
養成すべき人材像	①がん発症の遺伝的リスクを的確に評価できる人材 ②がん発症の遺伝的ハイリスクにある患者やその家族に, 予防医療を提供できる人材 ③がん発症の遺伝的ハイリスクにある患者やその家族における心理的課題, 倫理的課題に対応できる人材						
修了要件・履修方法	・必修科目6単位, 選択必修科目3単位以上を履修し, 試験に合格すること。						
履修科目等	<p><必修科目></p> <p>予防医学概論(2単位):がん検診と全国がん登録, 健診検査総論, 臓器別検診各論, 保健指導, 口腔保健, ゲノム医療と検診</p> <p>がん予防カウンセリング(2単位):精神腫瘍学, ライフステージ別がんカウンセリング, チームカウンセリング, 遺伝性腫瘍カウンセリング, 健康行動理論, 行動変容支援, 遺伝性腫瘍発症前診断に関するELSI</p> <p>がん予防カウンセリング実習(2単位):他職種連携ロールプレイ, 連携施設遺伝診療部門および検診施設における遺伝性腫瘍リスク管理/遺伝カウンセリング/保健指導</p> <p><選択必修科目></p> <p>がん診療の基礎知識(2単位), 臨床腫瘍学各論(1単位), 臨床心理学概論(2単位)</p>						
がんに関する専門資格との連携	臨床遺伝専門医, 専門看護師(遺伝看護, がん看護), 認定遺伝カウンセラーの研修施設/養成課程として認定						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	がんゲノムプロファイリングやコンパニオン遺伝子関連検査の普及により, がん医療を契機として遺伝性腫瘍の診断がなされる機会が増加している。遺伝性腫瘍は, 特定の臓器・部位におけるがん発症リスクが高くなる特徴があり, 対策型検診ではなくハイリスク臓器・部位に特化した精査を実施することにより, 効果的ながん予防が期待できる。特に, 遺伝性腫瘍と遺伝学的に診断された担癌患者の血縁者においては, 遺伝学的検査による発症前診断が可能であり, 遺伝学的診断に基づいたがん予防医療の高い効果が期待される。一方で, 遺伝性腫瘍と診断されることは, 当事者に遺伝性疾患特有の心理的, 社会的, 倫理的な課題が生じることにもつながり, 遺伝医療専門職による専門的対応が必要である。本コースでは, 遺伝医療専門職のがん医療, 予防医療の知識・技能を向上し, がん予防医療に強い遺伝医療専門職を養成することを目的とする。						
指導体制	本学及び連携施設の臨床遺伝専門医指導医, 認定遺伝カウンセラー養成課程教員, 遺伝看護専門看護師養成課程教員と, 予防医療を専門とする医師・保健師が連携して指導にあたる。						
修了者の進路・キャリアパス	本コース修了者は, 地域の中核拠点病院やがん拠点病院において, がん医療から遺伝医療・予防医療への橋渡しと, がん遺伝医療・予防医療を実践することが期待される。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
<small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	0	10	10	10	10	10	50
受入目標人数設定の考え方・根拠	連携大学における認定遺伝カウンセラー養成コース, 遺伝看護専門看護師養成コースの志願者と, 臨床遺伝専門医の専攻医の見込みと, 実習の受け入れ可能人数から, 10人/年と設定。						
履修者数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
<small>※当該年度に「新たに」入学した人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	0	15					15